ふるさとにつたわる　お話を　さがそう

峯弥九郎と 紀州犬

御浜町には、かりに　もちいられてきた紀州犬に　まつわる『峯弥九郎と紀州犬』と　いう　お話が　のこされて　います。峯弥九郎さんは、どんな　人でしょうか。

また、紀州犬と　どんな　かかわりが　あるのでしょうか。

紀州犬

（御浜町提供）

紀州犬と　いう　犬は、みんなで　大事に　守っていこうと　国の　天然記念物に　選ばれています。

お話

「峯弥九郎　ものがたり」

熊野の　おく山に　ある　さか本村に、峯弥九郎と　いう　りょうしが　すんどっての。

あるとき、弥九郎は　新宮へ　用が　あって　行ったんじゃが、帰りが　おそうなってな。山道を　歩いて、とうげまで　来ると、もう日は　とっぷりと　くれてしもた。

と、くらやみの　中で、ごそごそ　うごいとる　もんがある。弥九郎が　あたりを　見まわすと、２間（やく４メートル）ぐらい　はなれた　ところで、なにかが　キラキラ　光っとる。よく見ると、なんと　一ぴきの　おおかみの　目玉　やったんじゃ。

おおかみは　くるしそうに　近づいて　きてな。

「なにか　くるしそうじゃのう。わしが　見たろか」

と、おおかみが　だらんと　あけている　口の　中を　のぞきこむと、

「おお、おお、かわいそうに。大きな　ほねが　ささっとるぞ」

と、おおかみの　口に　手を　入れて、さっと　ほねを　ぬいてやったんや。

「どうれ。そんなら　帰るとしょうか」

さか本の　家に　むかって　歩き出すと、おおかみも　トボトボと　後を　ついてくる。　弥九郎は、

「おおかみよ、もう　このあたりで　ええから、お前も　帰って休め。そのかわり　お前に子が生まれたら、一ぴきわしに　くれよ」

と言って　おおかみを　帰したんやと。

それから　半年たち、おおかみの　ことなど　すっかり　わすれとった　弥九郎が　朝　おきると、家の　前で　クンクンと　子犬の　鳴く　声が　する。戸を　あけると、一ぴきの　かわいい　子犬が　まとわりついて　きたんじゃ。よく見ると　それは　おおかみの　子やった。

弥九郎は、子犬を　マンと　名づけて　大切に　そだてたんじゃ。大きくなると　かりにも　つれて　いくように　なってのう。マンは、弥九郎も　おどろくほど　すばらしい　りょう犬となって、あたりでも　その名が　知られるほどに　なったんじゃと。

そんな　あるとき、新宮の　とのさまから、

峯弥九郎と 紀州犬

「かりを　するゆえ、りょうしは　あつまるように」
との　おふれが　出ての。弥九郎も　マンを　つれて　かりに　さんかしたんじゃ。
　とのさまが　山の　上で　休んで　いた　ときの　ことや。一頭の　けがをおった　いのししが　とび出し、とのさま　めがけて　つきすすんできたんじゃ。あわや、というとき、どこからか　マンが　とび出してきて、いのししの　のどを　めがけて　とびかかったんやて。
　あやうい　ところを　たすけられた　とのさまは　たいそう　よろこんで、弥九郎と　マンに　たくさんの　ほうびを　あたえたんじゃと。

　そんな　ある日の　夜、近くに　すんどった　おばが　弥九郎を　たずねてきて、
「弥九郎よ、お前が　かわいがっとる　マンは、おおかみの　子じゃと　せ間では　言うが、本当の　話かのう」
と　たずねるもんで、弥九郎は、これまでの　ことを　話したそうじゃ。
「そやけど　おおかみは　人間に　どれほど　かわいがられても、生き物を千びき　食うと、つぎは　かいぬしを　おそう、そう　むかしから　言われとるぞ。用心した　方が　ええぞ」
と　おばは　つづけて　言うた。

　そとで　聞いとった　マンは、話が　おわると　かなしそうに三回、夜空に　むかって　とおぼえをし、すがたを　けしたそうな。
　ゆう名な　紀州犬は、弥九郎が　そだてた　マンの　ちを　引いていると　言われとるんじゃ。

三重県Ｗｅｂページ、ほかから作成

考えてみよう

1　峯弥九郎は　どんな　しごとを　していましたか。
2　峯弥九郎は、くらやみの　中で、おおかみに　出会ったとき、おおかみの　ことをどう思ったでしょうか。
3　峯弥九郎は、おおかみに　どんな　気もちで　どんな　ことを　してあげましたか。
4　とのさまを　たすけた　マンの　ことを　峯弥九郎は　どう　思ったと　思いますか。
5　マンは、どうして　すがたを　けしてしまったのだと　思いますか。
6　あなたの　すんで　いる　町には　どうぶつが　出てくる　お話は　ありますか。しらべて　みましょう。